

**問** 木材流通供給センターは木材業界の協力が必要

**答** 努力しているが難しい

伊藤 一郎 議員

**問** 木材流通供給センターについては、以前に旧宍粟郡で取り組んだ木材流通センターの検証をなされたのか。また、負債は残っているのか。今回の事業については、木材業界の一致した協力なくしてできないと思うがどうか。

**市長**

平成19年度の宍粟郡木材流通加工センター

通常総会資料によると流通センター負債額は、1億3千万円です。当初は、宍粟郡5町の森林組合と宍粟郡木材協同組合・山崎木材市場の総意により設立した。平成16年度から収入が増して負債の返済をしている。検証は難しいが、事業の目的を見れば有意義であった。昭和55年をピークに木材需要が低迷しつづき、当初の計画に基づく管理・運営が出来なかった。当時の時代背景と今回の事業展開の方法は違う。県のシミュレーションでは、「外材輸入の減少・国産

**問**

空き家対策について！

**市長**

J Aハリマにおいて、空き家の活用を考えておられるので、これらも踏まえて地域づくりの観点から取り組みたい。



須賀沢の木材流通センター

**問** 内海く山崎線を林道の施工では

**答** 調整をしながら検討する

内海 利為 議員

**問**

県道内海く山崎線の全面開通は地域上げて強く要望している路線ですが、今もって工事着手の噂を聞かない。合併時の交通アクセスとして、また、葛沢北部住民の災害救済路として必要不可欠な路線でもありません。現在実施している過疎代行前地くカンカケ線の延長として、前地く上ノを結ぶ路線変更の申請が考えられないか。

**産業部長**

今、実施している前地カンカケ線は、延長15kmで進捗率も20%で



前地カンカケ線

ある。前地く上ノ線については今後の状況を見て検討していきたい。

**副市長**

山崎時代から県道内海山崎線を国道429号に結ぶ道路として模索しているが、国有林等道路敷の問題とか、色んな課題が山積しており断念した経緯もある。基本的には難しい部分もあり慎重に議論をしていきたい。

**問**

風倒木に係る事業実施に関係機関との調整は充分に行われているか。

**産業部長**

月1回の割で県農林振興事務所・森林組合・市と定期的に連絡調整会議をしている。

また、担当者レベルの連絡調整会議も行い、市民局と本庁、森林組合、県の関係部署とも連携を密に事業推進をしている。